

保育闘争委員会ニュース

公的保育を守り拡充させよう

2017年
8月30日(水)
第147号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

各地の取り組みを紹介します。今回は、世田谷の取り組みです

国と東京都に予算増額を求める意見書提出を求める署名 16,650筆を集め、区議会陳情。結果は継続審議に。

世田谷ではこの春、区職労保育園分会も参加する「公的保育・福祉を守る世田谷実行委員会」で区議会宛の陳情署名に取り組みました。内容は、「待機児童の解消と世田谷の保育の質の維持に係る保育予算の増額を求める意見書を国と東京都にあげてください」というもので、7月の区議会に向けて4～6月の3ヶ月間に駅頭宣伝6回、公立保育園全園の門前配布、各保育施設や各団体への呼びかけなどで、審議当日までに約16,500筆の署名を集めることが出来ました。

7月6日の審議当日は、各園1名の傍聴参加を呼び掛け、公私立等合わせて33人が傍聴に駆けつけました。

陳情の趣旨説明で、保育実態を訴える。

世田谷区議会では、陳情者に趣旨説明の機会があります。当日は、現在の保育の状況を私立の保育士から『区はよりよい保育のために保育園をたくさん作り、働きたいというお母さん達の要望に答えていただきありがたい。861人の待機者はすごい数。保育園には毎日のように親からの切実な電話があるが、保育園は定員いっぱいでは預かれない。世田谷区だけでは限界なので、都や国に予算措置してもらおうよう声を上げて欲しい。』また、保護者の方からは、「提出された16,650筆の署名は重い。話したいことは一つ。保育園と保育士の処遇を改善して欲しい。保育園の数は増えており、世田谷の行政を誇りに思う。自身の職場（出版社）も24時間灯りの消えるときのないような労働環境であるが、その自分から見ても保育士の仕事は大変。人の命を預かっているにもかかわらず給料が低い。給料がよいからと集まってくる人だけでは困るが、志があっても長く働き続けられない現状がある。」と訴えました。

陳情審議では…

陳情の署名活動では、保育の現状が細かく書かれたハガキ付きのチラシと、シンプルに陳情内容のみをのせた用紙の2種類で取り組みました。すると、区議会での陳情審議で、ある議員が「2枚の用紙の内容に違いがあるのではないか。」「チラシには認可保育園を増やしてほしいという文言が記されているが、もう一枚の用紙には記載されていない。内容に差異のあるものを陳情として受け入れるのはおかしい」と言い出し、その後の審議の内容が主に用紙の形式についてという非常に残念なものになってしまいました。議論の末、採決では、趣旨採択3・不採択3・継続審議1で継続審議となりました。保育の内容についてはほぼ語られないという内容に納得のいかない思いです。

区民の「保育予算を充実させてほしい」という願いの中には、認可を増やしてほしいという願いも当然含まれています。陳情の内容に差異があるとは到底受け取れないと思います。

しかし、審議では、陳情の内容に異論を出す議員さんは殆どいなかったもので、このことに自信を持ち、再度私たちの声を届けていきたいと思い、9月議会に陳情を出す方向で準備を始めています。